

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

安全上のご注意

●下記のことを必ず守ってください。守らないときは、感電による火災、感電又は過熱、ショートによる火災のおそれがあります。

警告

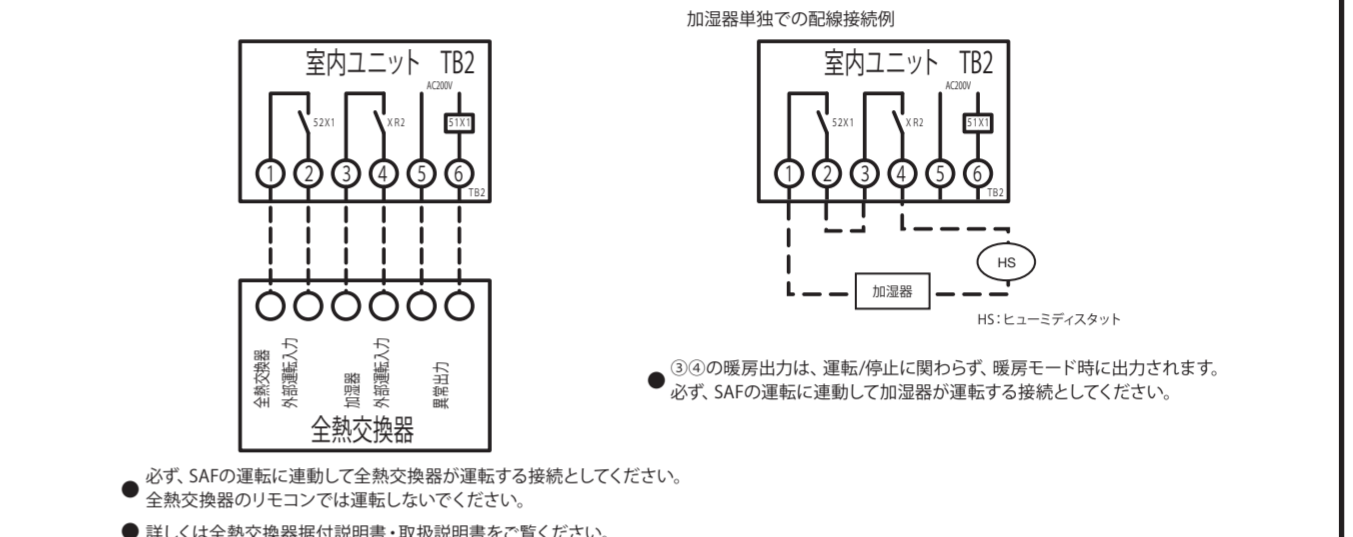
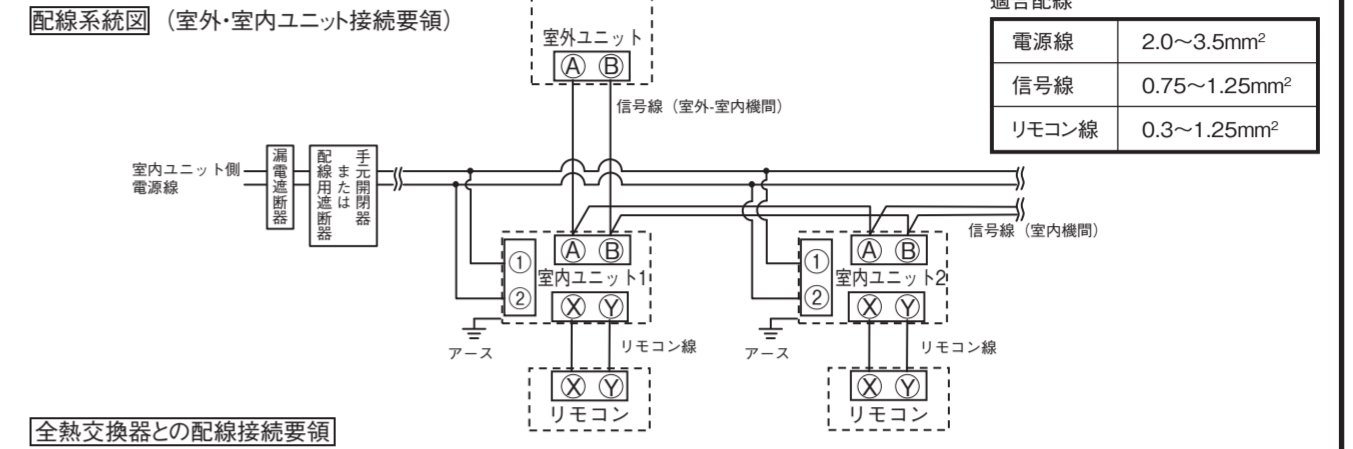
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。
カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。
- 電源プラグを差し込む際は、電源プラグ側だけでなく、コンセント側にもホコリの付着、詰まり、がたつきがないことを確認し、刃の根元まで確実に差し込む。
ホコリの付着、詰まり、がたつきがあると、感電、火災の原因になります。コンセントにがたつきがある場合は、交換してください。
- 別売品は、必ず当社指定の部品を使用する。また、取付けは専門業者に依頼する。
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ずOFFする。
点検・修理にあたって、電源ブレーカがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事をする。
感電、故障や動作不良の原因になります。

注意

- アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電の原因になることがあります。
- 電源には必ず漏電遮断器（高調波対応品）を取付ける。
漏電遮断器が取付けられていないと感電の原因になることがあります。
- 正しい容量のブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器+B種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。
大きな容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 電源配線は、電流量に合った規格品の配線を使用する。
漏電や発熱・火災などの原因になることがあります。
- 室内外接続用端子台および電源用端子台に単線とより線を併用しない。
また、異なったサイズの単線またはより線を併用しない。
端子台のねじゆるみや接触不良が生じ、発煙・発火の原因になることがあります。
- 運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。
- 電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

①電源・室内外・全熱交換器配線の接続

- 機器毎に設定された過電流及び漏電遮断器（感度電流30mA）を設置してください。
- 専用の分岐回路を用い、他の機器と併用しないでください。併用した場合、電源ブレーカ落ちによる2次災害が生じる恐れがあります。
- D種接地工事を必ず行ってください。
- 室内ユニットに接続する電源線は3.5mm²まで使用可能です。5.5mm²以上の配線を使用する場合は、専用のプルボックスを使用し、室内ユニットへ分岐してください。
- ユニットの外部では、リモコン線と電源線が直接接触しないように施工してください。
- 天井裏内の配線（電源・リモコン・室内外接続線）はネズミ等により、かじられ切断することもありますので、なるべく鉄管等の保護管内に通してください。
- 信号側端子台に200V電源を絶対に接続しないでください。故障の原因となります。
- 信号線を途中接続する場合は、絶対に水が浸入しないような処置を行ってください。
- 配線の接続はねじの緩みがないように確実に行ってください。
- 電源は工事が完了するまで入れないでください。
- ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続



形式	漏電遮断器定格	開閉器容量	ヒューズ	電源線太さ	配線こう長	信号線	リモコン線	アース線
SAF-DXP3503	15A 30mA 0.1sec	30A	15A	2.0mm ² ×2	2000m	0.75~1.25mm ² ×2	0.3mm ² ×2心	2.0mm ²
5003								
8003								
10003								

注1. 配線こう長は、電圧降下2%とした場合を示します。上記の配線こう長を越える場合は、内線規程に従い、配線太さを見直してください。
注2. リモコン線の延長距離が100mを越える場合は、③リモコンの取付けに従い、配線太さを見直してください。

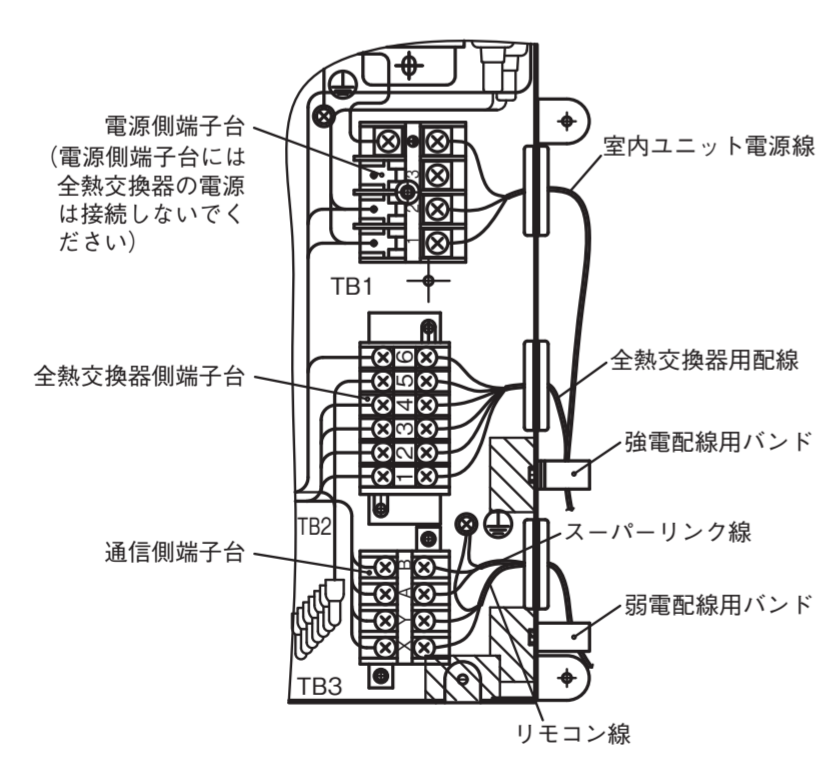
冷暖フリーマルチの場合

●本ユニットを冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ（別売品）に付属の据付説明書をご覧ください。

②電気配線取出し位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
- 電源配線と通信配線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
- D種接地工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

1. 電装箱の蓋（ねじ2本）を取外し、上部の引掛けを外してください。
2. 各配線をユニット内に入れ、端子台に確実に接続してください。
コントロールボックスの蓋に貼付の結線銘板参照ください。
3. 各配線をクランプで固定してください。
4. 取外した部品を元通りに取付けてください。



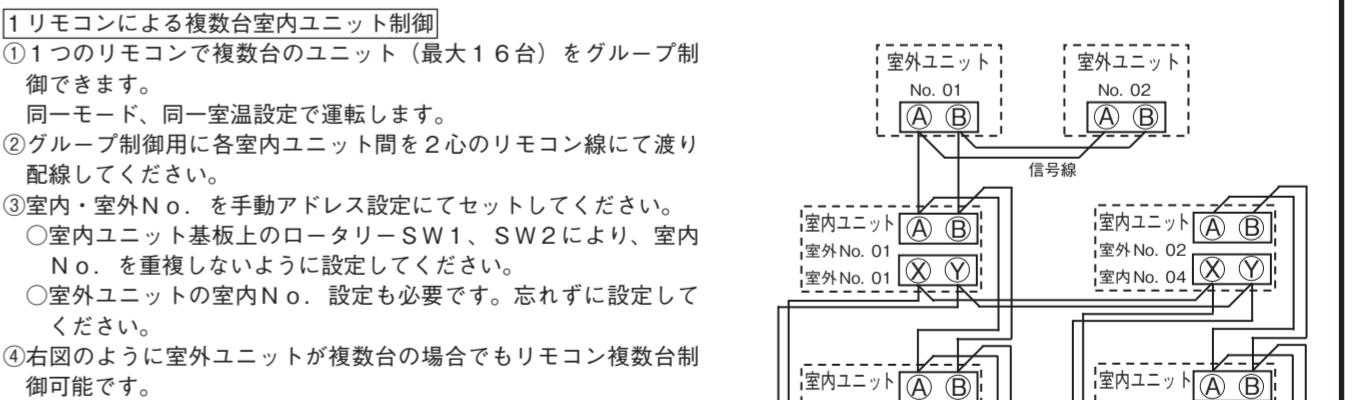
③アドレス設定

アドレス設定は、(1) 手動アドレス設定、(2) 自動アドレス設定の2方法ができます。
自動アドレス設定の場合、アドレス設定後、ワイヤードリモコンからアドレスの変更が可能です。
設定方法は、室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

④リモコンの取付け（別売品）

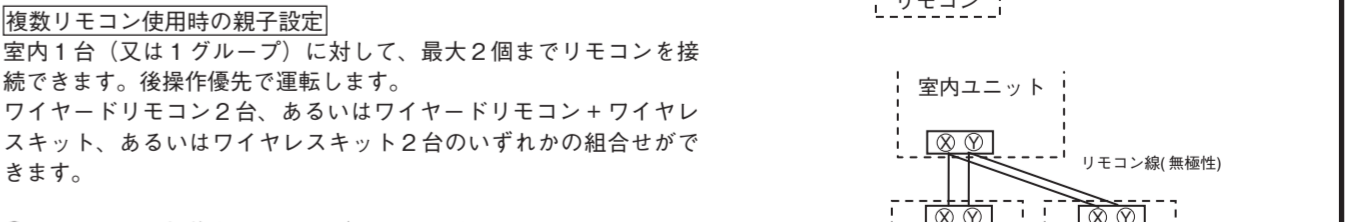
- 次の位置へ取付けないでください。
 - 直射日光の当たるところ
 - 発熱器具に近い所
 - 湿気の多い所、水が飛散する所
 - 取付面が発熱・結露する所
 - 油の飛沫や蒸気が直接触れる所
 - 取付面の凹凸がある所

- リモコン取付・配線
- ①リモコンの取付けは、リモコン付属の説明書に従ってください。
- ②リモコン線は、0.3mm²×2心の電線またはケーブルを使用してください。（現地手配）
- ③リモコン線の総延長は600mです。
延長距離が100mを超える場合は、下記サイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズを変更してください。
 - 100~200m以内・・・0.5mm²×2心
 - 300m以内・・・0.75mm²×2心
 - 400m以内・・・1.25mm²×2心
 - 600m以内・・・2.0mm²×2心
- ④誤動作する場合がありますので、多芯ケーブルの使用は避けてください。
- ⑤リモコン線はアース（建物の鉄骨部分または金属など）からできるだけ離してください。
- ⑥リモコン線は確実にリモコンと室内ユニットの端子台に接続してください。（極性はありません）



電源投入後、リモコンのエアコンNoを押すと室内アドレスが表示されますので、▲▼ボタンで接続されている室内アドレスがリモコンに表示されることを、必ず確認してください。

室内ユニット確認方法
エアコンNo.が表示されている時に運転切換ボタンを押すとそのNo.の室内ユニットが送風運転します。（表示例：「内000送風」）
再度運転切換ボタンを押すと、送風運転を停止します。
但し、エアコンが運転中の場合は無効です。



- ①子リモコンの切換えスイッチ（ワイヤードリモコン：SW1、ワイヤレスキット：SW1-2）を「子」に設定してください。初期設定は「親」設定です。
- 注意 リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。

スイッチ	設定	機能内容
ワイヤードリモコン: SW1	親	親リモコン
ワイヤレスキット: SW1-2	子	子リモコン

